

連合会名

シニアクラブ御前崎

見守り活動

地区連合会の活動

事業実施主体：『御前崎地区連合会』

(御前崎市青少年健全育成事業)

事業の概要	
(1) 内容	・毎朝7時10分から通学時間帯にサポート隊の旗を持って、県道交差点や学校周辺で交通整理と声掛け、挨拶運動を実施。安心して通学できる環境づくりを実施している。
(2) 活動日	・令和3年4月1日(木)から1年を通して実施
(3) 会場	・県道 御前崎から菊川線
(4) 参加者	① 交流対象者 約800名 ② 交流参加者数 93名 ③ 会員参加者数 延べ900名
(5) 講師又は指導者数	名
事業の成果と課題	・立哨を続けてきたことで、今では子供たちの方から声をかけてくることもあり、コミュニケーションの大切さを実感しています。1年生も6年生に負けないよう大きな声で挨拶してくれるようになり。活動の成果だと感じています。 ・今後も、事業が継続できるように、後継者の育成に力を入れていくことが大事だと思います。

令和3年度 スクラム御前崎の集い

日時：10月30日（土）午前10時開演
場所：佐倉地区センター ホール

次第

- 10:00 ～ 開会あいさつ 御前崎市青少年健全育成会議会長
御前崎市市長 柳澤 重夫
- 10:10 ～ 活動発表 「五感を使って楽しく学ぶ体験型教育活動『御前崎クエスト』」
発表者 NPO法人 Earth Communication 代表 川口 眞矢 氏
- 10:30 ～ 講演 「子どもたちの健やかな脳発達のために」
講師 東北大学 加齢医学研究所 教授 瀧 靖之 氏
- 11:45 ～ 閉会あいさつ 御前崎市青少年健全育成会議副会長
御前崎市教育長 河原崎 全

活動発表 NPO法人 Earth Communication 代表 川口 眞矢 氏



「地域や自然、私たちを取り巻くさまざまな環境」とのつながりを大切に、自然体験活動を通して、子どもたちの豊かな成長を支え、環境の大切さについて考えてもらう「きっかけづくり」を行い、より良い地域・社会を後世につなげる活動に取り組む。

平成29年度より、「御前崎クエスト」の運営に携わる。
令和3年度子供を育む地域活動団体表彰 受賞

講演 東北大学 加齢医学研究所 教授 瀧 靖之 氏



東北大学医学部を卒業後、東北大学大学院医学系研究科博士課程を修了。16万人以上の脳のMRI画像を用いたデータベースを作成し、脳の発達や加齢のメカニズムを研究している。

著書…「生涯健康脳」「賢い子に育てる究極のコツ」など

脳医学に基づく大切な習慣や家庭環境など効果的な子育てについて書かれており、10万部を突破するベストセラーとなっている。

この集いは、「子供・若者育成支援強調月間」に合わせ「地域の子どもは地域の大人が育てる」という意識の下、家庭・学校・地域・行政の連携、協力を促進することを目的として開催します。

－ 県知事からのメッセージ －

静岡県青少年対策本部長／静岡県青少年育成会議会長
静岡県知事 川勝 平太

本日、ここ御前崎市において、令和3年度スクラム御前崎の集いが開催されますことを心からお慶び申し上げます。また、日頃から新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながら、子供・若者の健全育成や支援活動に積極的に取り組まれている皆様の御尽力に対し、改めて感謝申し上げます。

本県では、「富国・有徳の美しい“ふじのくに”づくり」を県政の基本理念に掲げ、県民幸福度の最大化を目指し、人づくり、富づくりに取り組んでいます。とりわけ、子供や若者の健やかな成長は、県民の願いであり、子供や若者が「生きる道」を見出し、「有徳の人」として歩めるよう、適切な支援を行うことが重要です。そのために、「地域の子供は地域の大人が育てる」という決意の下、家庭・学校・地域・職場がそれぞれの役割を果たし、連携を深め、互いに学び、支え合う教育を推進しています。

コロナ禍における非対面、非接触による交流は、ICT化を更に加速させ、人々の生活に変化をもたらしました。ICT化による利便性に目が向けられる一方、デジタル機器の接触機会が増えたことによるネット依存、ゲーム障害といった問題が生じています。さらに、対面での交流が制限されたことにより、孤立を深める子供や若者の増加が懸念されるほか、引きこもり、ニートやひきこもり、不登校、貧困、児童虐待など、複雑な問題を抱えた子供や若者への支援も推進していく必要があります。

こうした課題に対応するため、県では「夢へはばたけ！ふじのくに若い翼プラン—第3期静岡県子ども・若者計画—」の下、子供たちの成長と自立に向けた支援はもとより、困難を有する子供や若者、その家族への支援、さらには、子供が安心して生活できる環境、地域づくりを推進しています。

取り巻く環境が大きく変化し、ウィズコロナ、アフターコロナの社会に対応する力が求められている今だからこそ、“ふじのくに”の若人が「生き抜く力」を身に付け、夢に向かって自らの翼で羽ばたいていけるよう、県や市町のみならず、地域住民団体等が連携・協力し合い、一体となって取り組むことが重要です。まさに地域ぐるみ・社会総がかりの教育が求められています。全ての子供・若者がかけがえのない存在として誇りと自覚を持ち、「有徳の人」に成長していくために、引き続き、育成支援活動に携わる皆様をはじめ、県民の皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会を契機に、県内各地において社会総がかりの子供・若者育成支援活動が、ますます活発に展開されますことを祈念いたしまして、メッセージといたします。

